

ボトルtoボトル東京プロジェクト 令和3年度事業報告書

令和4年3月31日
一般社団法人全国清涼飲料連合会

目次

I. 令和3年度事業概要

II. 個別事業報告

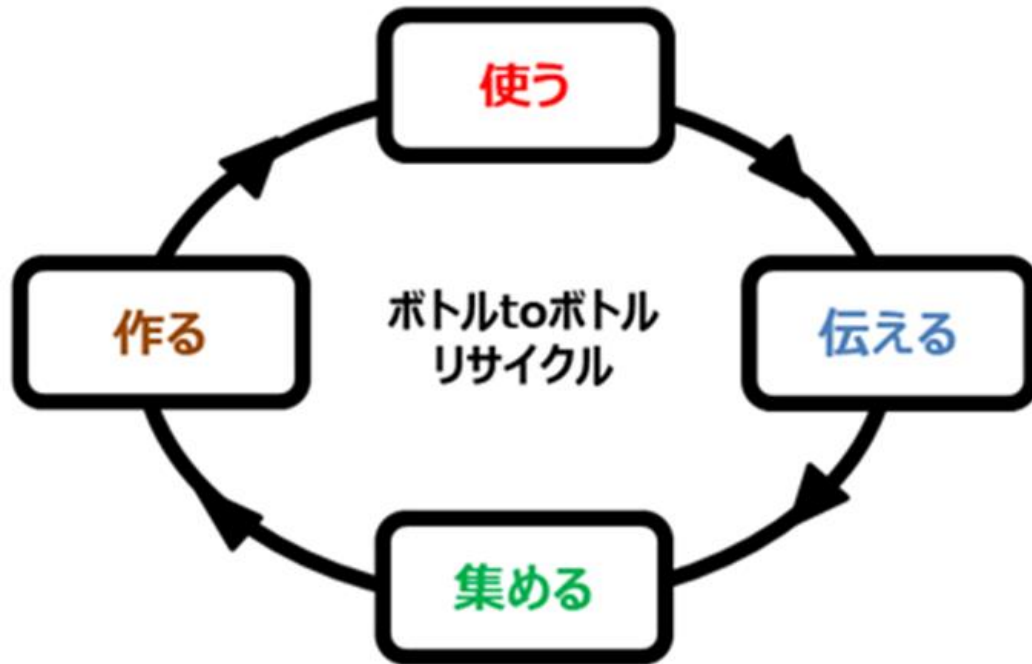
1. 葛飾区
2. センコー平和島PDセンター緑地帯飲料容器の散乱低減プロジェクト
3. 表参道SmaGO啓発広告プロジェクト

III. 令和3年度ボトルtoボトル東京プロジェクト総括

I. 令和 3 年度事業概要

ボトルtoボトル東京プロジェクトテーマ：ボトルtoボトル リサイクルサークルの推進

【飲料業界のボトルtoボトル推進へのコミット】



ボトルtoボトル東京プロジェクトでは【集める】に
重点を置いて実証実験等を実施

ボトルtoボトル東京プロジェクトでは【集める】に
重点を置いて実証実験等を実施

自治体連携の強化を通じて下記を推進する

- 消費者の分別回収の促進（ペットボトル、キャップ、ラベルと分けた3分別）
- 街中のポイ捨てを抑制して、正しい回収拠点に排出してもらうことによる回収率の最大化
 - ➡ ポイ捨てを抑制することで海洋への流出リスクも同時に低減させる

ボトルtoボトル東京プロジェクト 事業年度別テーマ

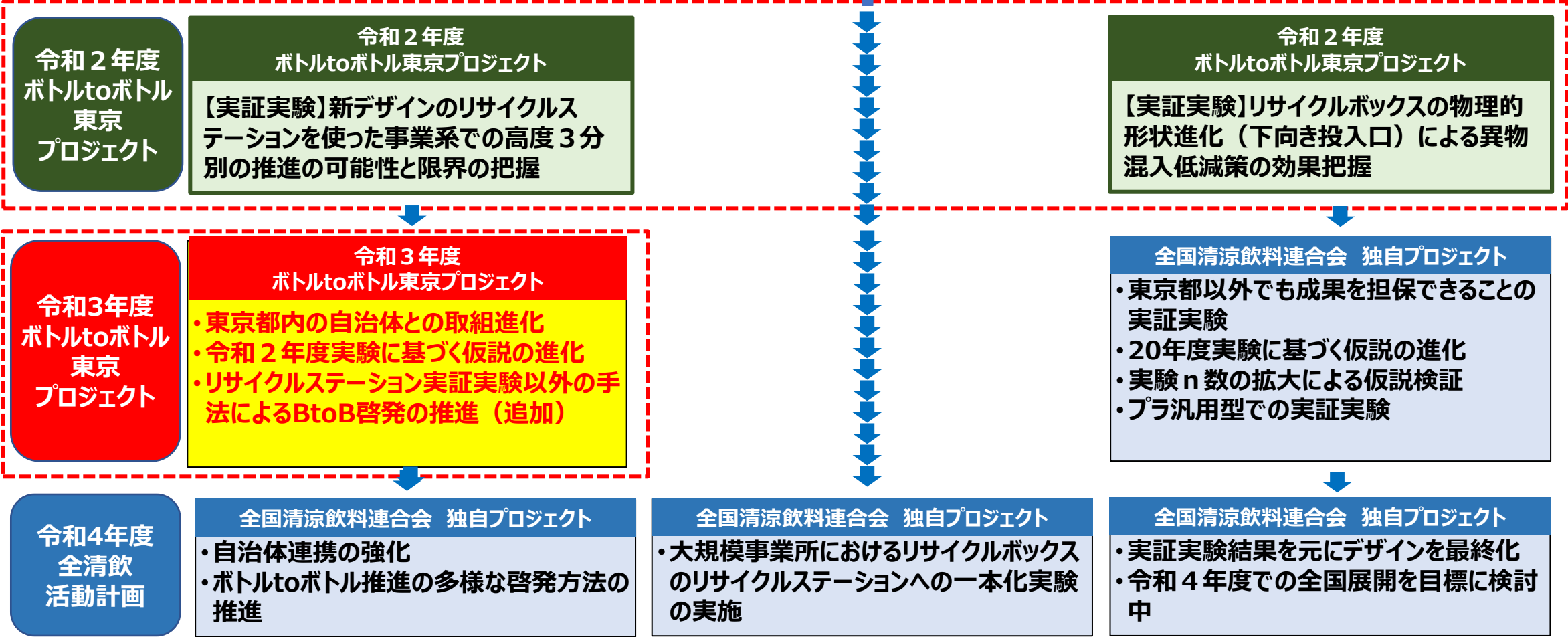
【プロジェクト目的：大命題】
品質の高い使用済ペットボトルの回収をより効果的に且つ効率的に推進する為には今後どのような施策が必要となるのか？

2つの分野に分けて検討

事業系（交通、事務所、学校、配送センター、等）の
回収における品質向上ならびに回収量の拡大策

自動販売機（特に外ロケーション）横の
リサイクルボックスからの回収品質向上（異物混入率低減）策

2020
2021
2022



ボトルtoボトル東京プロジェクト：令和3年度具体的案件

令和3年度 ボトルtoボトル東京プロジェクト

① 東京都内の自治体との取組進化



①



葛飾区

区民へのボトルtoボトル、3分別啓発活動(*)

② 令和2年度実験に基づく仮説の進化



②



センコー平和島PDセンター

緑地帯での散乱低減
汎用型リサイクルステーション実証実験

③ リサイクルステーション実証実験以外の
手法によるBtoB啓発の推進（追加）



③



表参道SmaGO啓発広告

若年層の意識改革を図る

(*) 3分別＝ペットボトル、キャップ、ラベルを分けた資源回収

令和3年度ボトルtoボトル東京プロジェクト 各案件における事業目標

	達成すべき成果	成果検証方法
①  葛飾区 区民へのボトルtoボトル、 3分別啓発活動(*)	- 区役所前の令和2年度型リサイクルステーションでのイベントで、有意的な3分別回収の実績が確認できる - 区民のリサイクル意識（理解度、現状の課題と今後に向けた要望）の把握及び変革	- 区役所前イベントにおいては、組成分析結果としての3分別分析 - アンケートによる、区民のリサイクル意識の把握及び変革の確認
②  センコー平和島PDセンター 緑地帯での散乱低減 汎用型リサイクルステーション実験	- センコー平和島PDセンター周辺の緑地帯飲料容器の散乱の有意的な低減 - 新設計の汎用型リサイクルステーションが、令和2年度型との比較で一定効果が維持されていること	- 緑地帯散乱状況を実証実験中において週次で確認 - 汎用型リサイクルステーションの3分別（ペットボトル、キャップ、ラベルの分別）回収比率分析
③  表参道SmaGO啓発広告 若年層の意識改革を図る	ペットボトルリサイクル率89%等の日本のペットボトル・リサクルにおける誇るべき事実をコミュニケーションし、若年層の意識改革を図る。	- マスメディアの取扱い数 - SNSでの拡散状況

(*) 3分別＝ペットボトル、キャップ、ラベルを分けた資源回収

II. 個別事業報告

1. 葛飾区

事業概要

案件名	葛飾区 資源循環啓発に向けた協働取組
目的	● 令和3年3月の葛飾区と全清飲の間で締結したボトルtoボトル推進に向けた啓発に関する協働取組みに関し、具体的なアクションを実行すること
実証実験期間	2021年令和3年8月2日～9月3日
実証実験内容	① 葛飾区役所前広場の令和2年型リサイクルステーションの設置（回転式） ✓ 期間：令和3年8月2日～9月3日 ✓ 目的：区民へのボトルtoボトルの資源循環啓発 ✓ 手段：区役所前への令和2年型リサイクルステーションの設置と並行して下記を行う ・ 葛飾区民への区報を通じたイベント告知 ・ 啓発ポスターによる区民・事業者への3分別啓発（245枚） ・ 区民へのアンケート調査実施 ② 葛飾区とのボトルtoボトル協働取組を通じて、他の自治体との連携を構築・強化すること。 ✓ ドリンクジャパンでの東京都、葛飾区、神奈川県、広島県との資源循環に関するパネルディスカッション ✓ 23区ゼロカーボンシティ特別区研究会での全清飲の資源循環取組に関する講演（葛飾区発信のボトルtoボトル取組強化の投げかけ）
達成イメージ	● 葛飾区役所前でのリサイクルステーションイベントで3分別（ペットボトル、キャップ、ラベル）回収の成果が確認できること。 ● 区報、ポスターの配布に関して、予定どおりの実施ができること。 ● アンケートで区民の意識向上が確認できること。 ● 葛飾区を通じて、23区や他の自治体へのボトルtoボトル啓発につながる活動が実施できること
投入機材	● 令和2年型リサイクルステーション（回転式）

葛飾区 資源循環啓発に向けた協働取組

① 葛飾区役所前広場の令和２年度型リサイクルステーションの設置（回転式）イベントの評価：

期間：令和３年８月２日～９月３日

目的：区民へのボトルtoボトルの資源循環啓発

手段：区役所前への令和２年度型リサイクルステーションの設置と並行して下記を行う

葛飾区民への区報を通じたイベント告知

啓発ポスターによる区民・事業者への３分別啓発（２４５枚）

区民へのアンケート調査実施

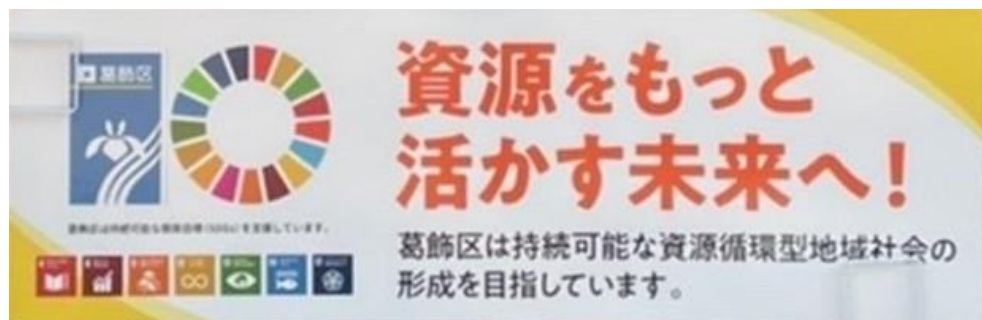
葛飾区役所入り口前に3分別回収を啓発する回収機材（リサイクルステーション）を展開 （8月2日～9月3日）



葛飾区
ごみ減量・3R推進
キャラクター。
「りー（Ree）ちゃん」

3分別回収を啓発する回収機材（リサイクルステーション） 各種啓発ツール・啓発POP

【メッセージボード】



【看板】



【夜間・土日祝日対応】



カバー（下方を紐でくる）で
異物投棄を防ぐ

【POP】



使い方説明



可燃・不燃分別

葛飾区役所入り口前に3分別回収を啓発する回収機材（リサイクルステーション）での3分別達成状況：組成分析結果

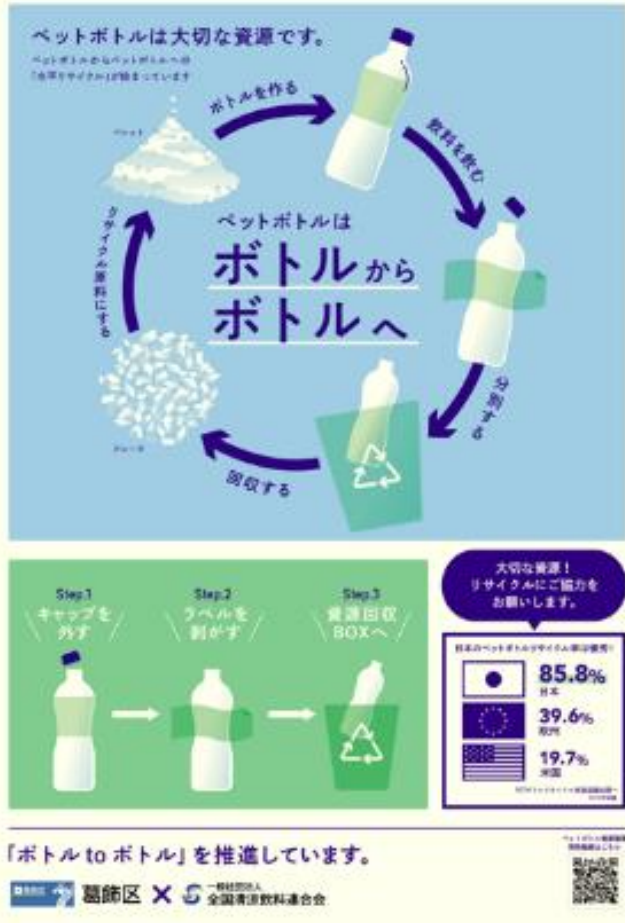
【組成分析結果（8月2日～9月3日 5週間分）】

調査場所	調査対象の袋	内容物	合計				
			滞留日数	袋総量(kg)	個数	%	重量kg
					飲み残しなし		
区役所前 広場	ペットボトル	ペットボトル（ボトルのみ）			71	87.7	2.089
		ペットボトル（キャップ・ラベル付き）	21.0	3.1	4	4.9	0.138
		ペットボトル（キャップ付き）			0	0.0	0
		ペットボトル（ラベル付き）			6	7.4	0.171
		キャップ			251		0.601
		ラベル			55		0.120
	カン・ビン	缶	21.0	0.8	22		0.490
		ビン			8		0.412
	不燃ごみ	飲料容器			0		
	可燃ごみ	飲料容器			0		



➡ 3分別実績は87%であり、令和2年度のボトルtoボトル東京プロジェクトで実施した実証実験ロケーションと比較しても高めの実績。
（昨年度は、オフィス、駅、配送センターで実施。3分別実績：70%～95%）

葛飾区役所前のリサイクルステーション設置と並行して、 ボトルtoボトル推進啓発ポスター投入 — 合計245箇所に掲示することができた。



目標
達成

施設名称	施設数	場所
公共施設	65	葛飾都税事務所、葛飾税務署、葛飾警察署、亀有警察署、本田消防署、金町消防署、葛飾清掃工場、高齢者総合相談センター（水元、新宿、高砂、青戸、東四つ木、奥戸）、シンフォニーヒルズ、かめありリリオホール、奥戸総合スポーツセンター、総合教育センター、科学教育センター、金町保健センター、テクノプラザかつしか、シニア活動支援センター、郷土と天文の博物館、学びの交流館（亀有、柴又、新小岩、水元）、亀有区民事務所、四ツ木駅区民サービスコーナー、地区センター（南綾瀬、水元、東金町、西水元、新宿、立石、柴又、奥戸、新小岩、東四つ木、東立石、亀有、青戸、四つ木、堀切、高砂、金町、お花茶屋、新小岩北）、勤労福祉会館、葛飾区社会福祉協議会、青戸保健センター、子ども総合センター、金町子どもセンター、子ども発達センター分室、男女平等推進センター、消費生活センター、障害者勤労支援センター、新小岩公園 和楽亭、堀切菖蒲園 静観亭、水元かわせみの里、清掃事務所新宿分室、政策企画課分室統計調査係、公園管理所、施設維持課分室、東生活課、道路補修課 道路保全事務所、清掃事務所
区立図書館	11	中央、亀有、西水元、水元、新宿地区、お花茶屋、こすげ、四つ木、鎌倉、奥戸地区、上小松
区立児童館	27	子ども未来プラザ鎌倉、児童会館、新水元、小菅、南新宿、新柴又、中道、西奥戸、鎌倉、亀有、末広、渋谷、東金町、東奥戸、高砂、幸田、東堀切、青戸、堀切、南奥戸、西亀有、青戸中央、白鳥、宝町、梅田、柴又、花の木
都立特別支援学校	5	水元特別支援、葛飾特別支援、葛飾盲、葛飾ろう、水元小合
大学	2	東京理科大学 葛飾キャンパス、東京聖栄大学
都立高校	6	葛飾野、南葛飾、葛飾商業、葛飾総合、農産、本所工業
専門学校	1	東京聖栄大学附属調理師専門学校
区立中学校	24	葛美、金町、上平井、新宿、常盤、青葉、青戸、奥戸、桜道、大道、新小岩、本田、立石、亀有、東金町、水元、小松、堀切、四ツ木、高砂、綾瀬、一之台、双葉、中川
区立小学校	49	上千葉、花の木、青戸、道上、水元、半田、二上、上小松、幸田、中青戸、梅田、松上、原田、亀有、細田、白鳥、小松南、住吉、西亀有、高砂、北野、飯塚、南奥戸、宝木塚、綾南、奥戸、金町、中之台、末広、こすげ、川端、本田、東水元、柴又、よつぎ、堀切、上平井、渋谷、鎌倉、東綾瀬、清和、東柴又、柴原、新宿、葛飾、東金町、西小菅、南綾瀬、木根川
区立幼稚園	2	北住吉、水元
区立保育園	38	青戸、上平井、中青戸、新水元、梅田、小合、二上、東堀切、白鳥、花の木、渋谷、半田、宝、幸田、道上、小菅東、つつみ、細田、西亀有、会野、南新宿、白鷺、東新小岩、小菅、堀切、南堀切、住吉、南白鳥、南奥戸、新高砂、南鎌倉、木根川、東半田、小松、四つ木、双葉、西新小岩、小谷野しょうぶ
事業者	15	株式会社アブアブ赤札堂、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社大黒流通チェーン、株式会社京成ストア、株式会社ダイエー、生活協同組合コープみらい、合同会社西友、トップコート株式会社グリーンコート、株式会社東急ストア、日東燃料工業株式会社、株式会社マルエツ、株式会社ライフコーポレーション、株式会社タカラトミー、ミヨシ油脂株式会社、レンゴー株式会社
合計	245	

葛飾区 地元事業者へのアンケート調査実施

■ 時期：9月月間

■ アンケートの狙い：

- ① 街中における使用済みペットボトル等の散乱状況の把握と今後の削減にむけた意識調査
- ② 区民のペットボトルのボトルtoボトルリサイクルにおける現状の把握

■ 対象：葛飾区リサイクル推進協議会の会員企業

事業者一覧

区内事業者	
1	株式会社アブアブ赤札堂
2	株式会社イトーヨーカ堂
3	株式会社大黒流通チェーン
4	株式会社京成ストア
5	株式会社ダイエー
6	生活協同組合コープみらい
7	合同会社西友
8	トップマート株式会社 グリーンマート
9	株式会社東急ストア
10	日東燃料工業株式会社
11	株式会社マルエツ
12	株式会社ライフコーポレーション
13	株式会社タカラトミー
14	ミヨシ油脂株式会社
15	レンゴー株式会社

葛飾区から各社への依頼

令和3年9月1日

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会
事業者活動部会部会員 各位

リサイクル推進課長
五十嵐 徹

ペットボトルに係る web アンケートについて

日頃より葛飾区のごみ減量の取組にご協力をいただき、ありがとうございます。

さて本区では、令和3年度から、区内から排出されるペットボトルの全量について、元の品質と同等の品質に両す水準リサイクルであるボトル to ボトルを推進しております。

また、令和3年3月には、一般社団法人全国清涼飲料連合会と協定を締結し、連携してペットボトルの適正な分別方法及び排出方法の啓発を講じており、先日は啓発用ポスターをお送りさせていただいたところです。

このたびはペットボトルの利用実態等について把握するため、以下のとおり web アンケートを実施することとなりました。ご多忙の折恐れ入りますが、貴社におきましてもご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(1) 対象者

・貴社の社員の皆様15名以上（区内在住であるかは問いません。）
※有意性のあるデータ取得のため15名以上のご回答をお願いいたします。

(2) 回答方法

・裏面に記載のQRコード又はURLからアクセスしご回答ください。
所要時間は約3分です。
※社内周知用のチラシも別紙で作成しましたので、ご活用ください。

(3) 回答期限

・9月30日（木）
※集計処理の関係から期間を区切っております。お手数ではございますが、期間内にご回答をお願いいたします。

アンケートチラシ

ペットボトルの
Webアンケート調査に
ご協力ください！

●葛飾区のごみ減量の取組にご協力いただきありがとうございます。
本区では、令和3年度から、区内から排出されるペットボトルの全量について、元の品質と同等の品質に両す水準リサイクルであるボトル to ボトルを推進しております。

●利用：ペットボトルのwebアンケート調査を実施しますので、ご協力をお願いします。

右のQRコードを読み取り、
アンケートにご回答ください。
所要時間は、約3分です。

葛飾区 × 一般社団法人全国清涼飲料連合会

アンケート結果（N=35）

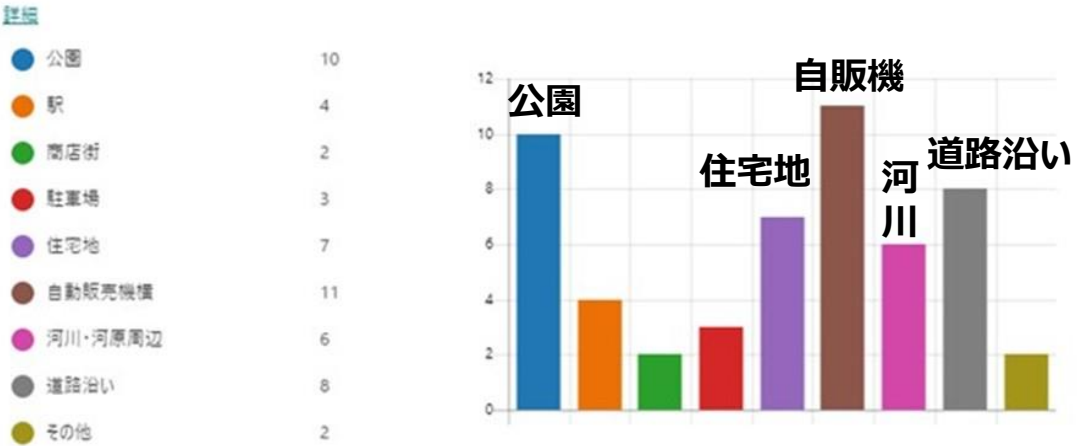
① 「街中における使用済みペットボトル等の散乱状況の把握と今後の削減にむけた意識調査」

【街中での飲んだ後の飲料容器の散乱の有無】

1. 葛飾区内で飲んだ後の飲料容器（ペットボトル・瓶・缶・カップ容器）が散乱しているのを見たことはありますか。※選択ください



2. 1.で「はい」とお答えになった方は、具体的にどこで見かけますか。※複数お選びいただけます。また、その他を選ばれた方は具体的な場所があればご記入ください。

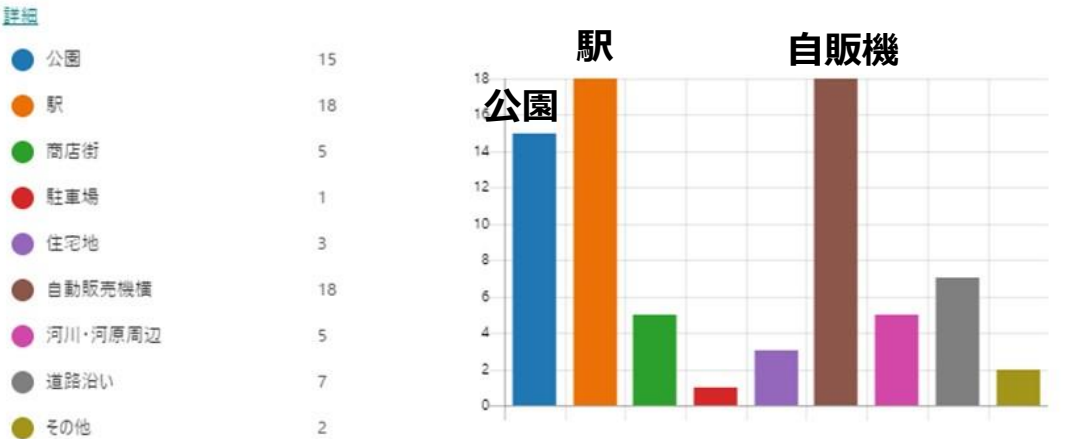


【回収ボックスの必要性】

3. 飲んだ後の飲料容器（ペットボトル・瓶・缶・カップ容器）の散乱を防止するために回収ボックスは必要ですか。※選択ください



4. 3.で「はい」とお答えになった方は、どこに回収ボックスがあれば散乱が減ると思いますか。※複数お選びいただけます。また、その他を選ばれた方は具体的な場所があればご記入ください。



アンケート結果（N=35）

②「区民のペットボトルのボトルtoボトルリサイクルにおける現状の把握」

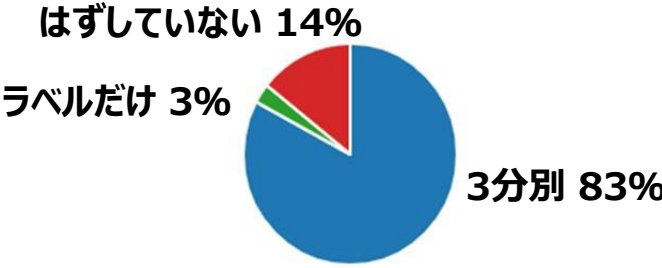
【3分別の実施状況】

5. 飲み終えたペットボトルの「キャップ」、「ラベル」ごついて、ご家庭では外されていますか。※選択ください

詳細

Insights

● キャップ、ラベル共に外している	29
● キャップだけ外している	0
● ラベルだけ外している	1
● 外していない	5

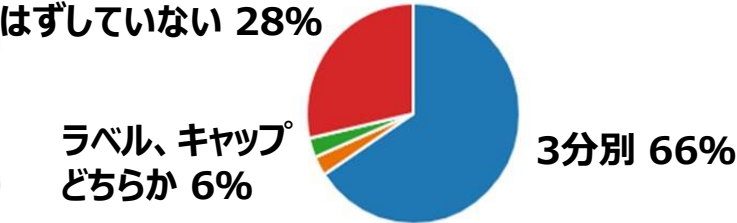


6. 勤務先・学校では外されていますか。※選択ください

詳細

Insights

● キャップ、ラベル共に外している	23
● キャップだけ外している	1
● ラベルだけ外している	1
● 外していない	10

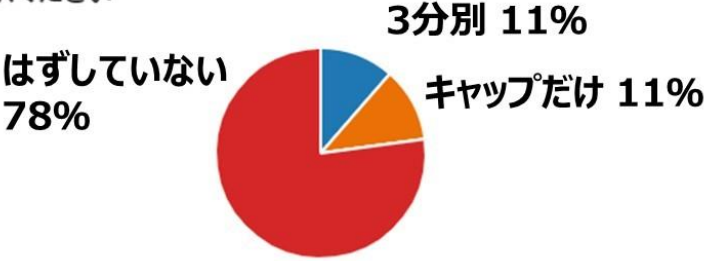


7. 外出先では外されていますか。※選択ください

詳細

Insights

● キャップ、ラベル共に外している	4
● キャップだけ外している	4
● ラベルだけ外している	0
● 外していない	27



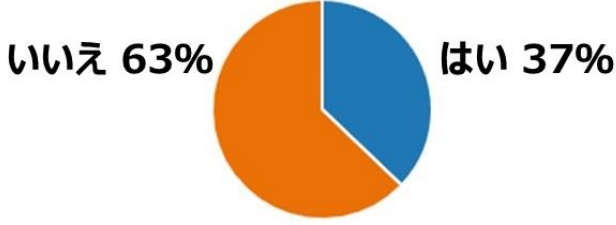
【リサイクル関連知識】

8. 日本のリサイクル率は85%で、世界の他国と比べて非常にリサイクルが進んでいることをご存じですか。※選択ください

詳細

Insights

● はい	13
● いいえ	22

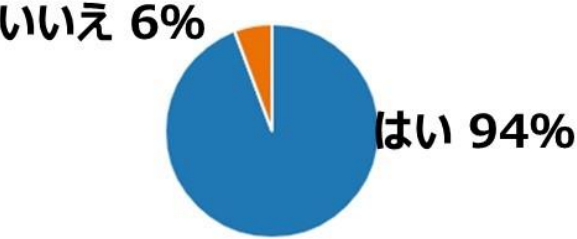


9. ペットボトルは、再度ペットボトルにリサイクルできることをご存じですか。※選択ください

詳細

Insights

● はい	33
● いいえ	2

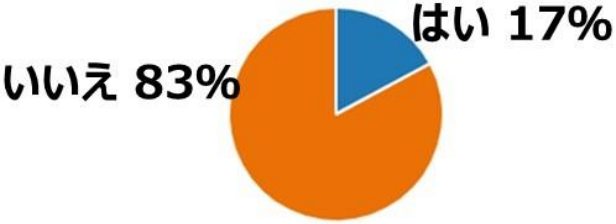


10. 葛飾区では、集積所から回収したペットボトルの全てを再度ペットボトルにリサイクルしていることをご存じですか。※選択ください

詳細

Insights

● はい	6
● いいえ	29



葛飾区 地元事業者へのアンケート調査結果（総括）

①「街中における使用済みペットボトル等の散乱状況の把握と今後の削減にむけた意識調査」について：

- 葛飾区内での使用済飲料容器（ペットボトル・瓶・缶・カップ容器）が散乱しているのを見たことがある比率は約70%
 - 場所が多いのは「自販機横」「公園」、次いで「道路沿い」「住宅地」「河川沿い」
- 散乱防止のために回収ボックスの必要性を感じている比率は90%以上。
 - 回収ボックス設置希望の場所が多いのは「自販機横」「駅」「公園」

示唆

街中の散乱防止を図るために下記の検討が必要：

- 自販機横での全清飲で検討中の新機能リサイクルボックス（異物を低減して投入スペースが確保できる）の投入
- 駅・公園でのごみ箱設置

②「区民のペットボトルのボトルtoボトルリサイクルにおける現状の把握」について：

- 家庭内での3分別の実施状況は83%。一方、勤務先・学校では66%、外出先では11%にとどまっている
- ペットボトルが再度リサイクルできることの認知率は94%と非常に高い
 - 一方、日本のリサイクル率の先進性や、葛飾区のボトルtoボトルの取り組みについての認知率はそれぞれ37%、17%にとどまっている

示唆

日本のリサイクル率の先進性 認知率を高め、ボトルtoボトルの有用性や葛飾区の取り組みを継続的に啓発していくことが必要：

- 葛飾区の啓発手段も活用（メディア、HP、区報、SNS、出前授業等）
- 特に、勤務先・学校や屋外での使用済ペットボトルの品質向上にむけた啓発が重要

葛飾区 資源循環啓発に向けた協働取組



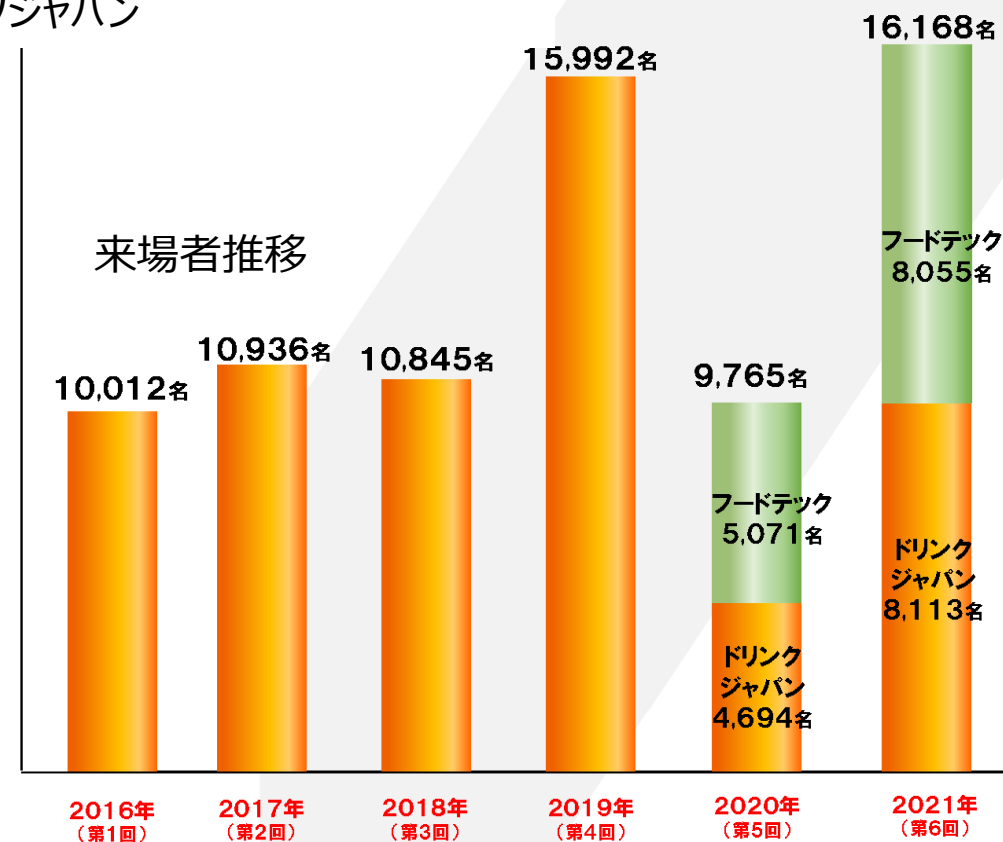
- ② 葛飾区とのボトルtoボトル協働取組を通じて、他の自治体との連携を構築・強化すること：
- ✓ ドリンクジャパンでの東京都、葛飾区、神奈川県、広島県との資源循環に関するパネルディスカッション
 - ✓ 23区ゼロカーボンシティ特別区研究会での全清飲の資源循環取組に関する講演実施（葛飾区発信のボトルtoボトル取組強化の投げかけ）

ドリンクジャパンでの東京都、葛飾区、神奈川県、広島県との資源循環パネルディスカッション



第6回 ドリンクジャパン
2021年10月13日(水)～15日(金)
幕張メッセ 9ホール
主催：RX Japan株式会社
共催：一般社団法人 全国清涼飲料連合会
同時開催：フードテックジャパン

- 清涼飲料業界最大のイベント
- コロナ影響により、来場者はピークの2019年には及ばなかったものの、2018年並みの来場者を確保。コロナ禍としては健闘したイベントとして評価。
- ドリンクジャパンでは、ブースの出展と並行して、清涼飲料業界に関連する最新の関心事を中心としたセミナーを実施。
- 今回、ドリンクジャパン初の試みとなる、資源循環をテーマとした自治体間でのパネルディスカッションの実施に挑戦し、聴講者より高い評価をいただいた。



ドリンクジャパンでの東京都、葛飾区、神奈川県、広島県との資源循環パネルディスカッション

➡ 初の試みにもかかわらず、153名の講演聴講申し込み

■ 日時：10月14日（木）15時～16時30分

■ 場所：幕張メッセ

■ テーマ：「行政とペットボトルの未来を考える」

東京都 資源循環推進部 古澤課長

葛飾区 環境部 五十嵐課長

神奈川県 環境農政局 環境部 加藤部長

広島県 環境保全課 岡田課長



- 東京都ならびに葛飾区をはじめ、各自治体との協働取組関係がなければ、実現しなかった企画。
- 事後のアンケートでも満足度は81%（大変満足＋満足の合計）との評価を聴講者より頂いた。
- 葛飾区との協働取り組みによる一つの大きな成果と評価

ゼロカーボンシティ特別区研究会にて、全清飲が講演実施の機会を頂戴した

■日時：2021年12月23日(木)

■講演内容：サーキュラー(循環)&エコロジカル(地球との共生)・エコノミーにおける
世界のトップランナーを目指して ～CO2排出量削減への取り組み～

■登壇者：那須企画部長

■参加者：

崎田リーダー（環境ジャーナリスト）

藤野副リーダー（地球環境戦略研究機関）

東京都13区の環境部門担当者（葛飾、千代田、新宿、江東、世田谷、
渋谷、中野、豊島、北、荒川、板橋、足立、江戸川）

東京都環境局、東京二十三区清掃一部事務組合（オブザーバー）

富士通総研（コンサルタント）

特別区長会調査研究機構（事務局） 計36名



■ 葛飾区以外の東京23区の環境関連のリーダーと意見交換できた意義は大きい。本件も葛飾区とボトルtoボトル推進に向けた協働啓発の取り組みがあればこそ実現した機会と評価する。



**ゼロカーボンシティ特別区研究会
全清飲講演資料
＜参考資料＞**

ゼロカーボンシティ特別区研究会 講演の資料 (P.1～6)

サーキュラー(循環)&エコロジカル(地球との共生)・エコノミー
における世界のトップランナーを目指して

～CO2排出量削減への取り組み～

2021年12月23日
一般社団法人 全国清涼飲料連合会
企画部長 那須俊一



講師紹介

一般社団法人 全国清涼飲料連合会 (略称: 全清飲)

清涼飲料水製造企業の会員ならびに関連する業界の賛助会員で構成。
前身母体の全国清涼飲料水同業組合の時代から数えると100年以上の歴史をもつ
清涼飲料水の業界団体です。

70会員 240社		賛助会員 (関係業者等)
組合会員 (中小清涼飲料製造業)	企業会員 (清涼飲料製造業)	141社
19会員 154社	51会員 86社	2021年5月末現在

2020年 清涼飲料水業界

加工食品トップクラスの大きな産業

生産者販売金額
3兆7978億円

1日あたりの生産額
104億円

生活のあらゆるシーンでの水分補給

総生産量
21,579千kl

1人1日あたりの消費量
469ml

容器別生産量シェア

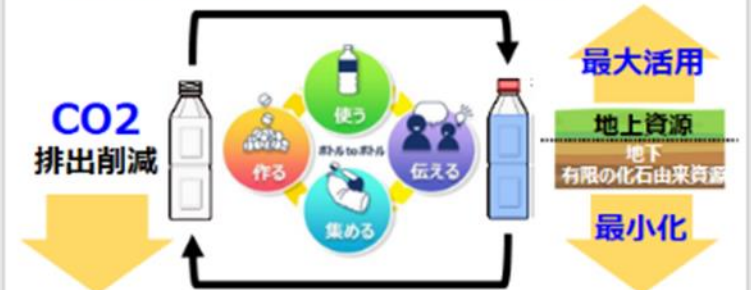


ペットボトル飲料シェア
76.0%

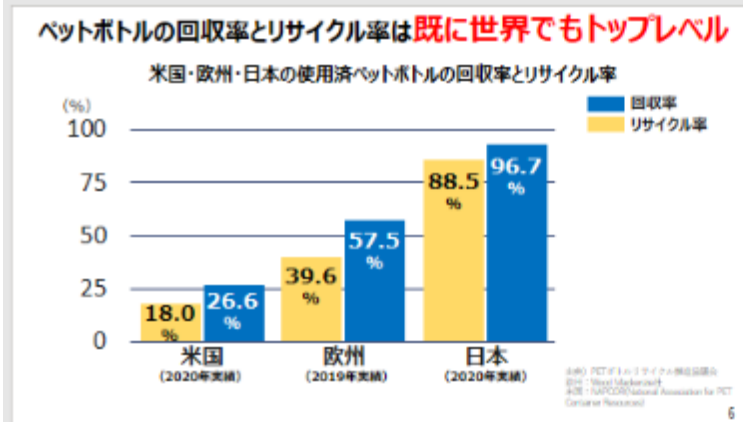
使用済ペットボトルは地上にある資源



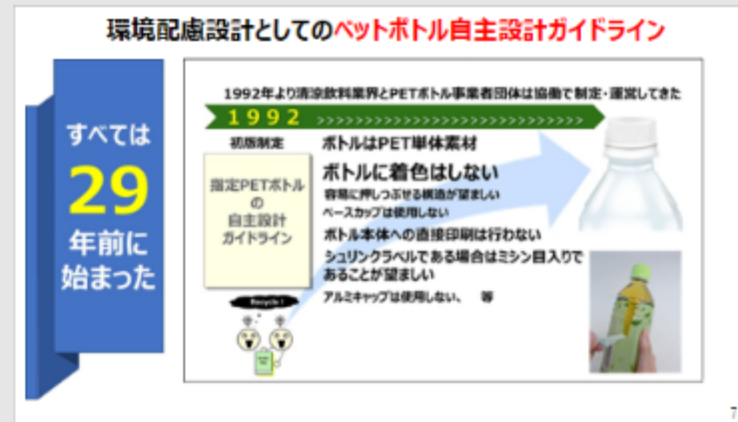
ボトルtoボトルは同じ材料を資源循環させる理想の水平リサイクル
『サーキュラー(循環)&エコロジカル(地球との共生)・エコノミー』



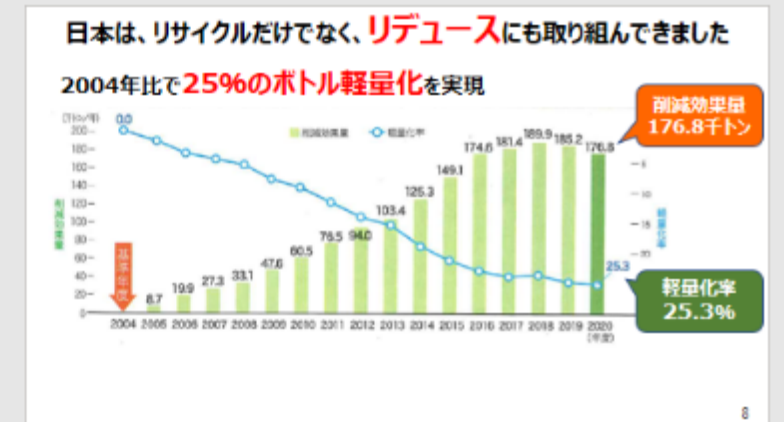
ゼロカーボンシティ特別区研究会 講演の資料 (P.7~12)



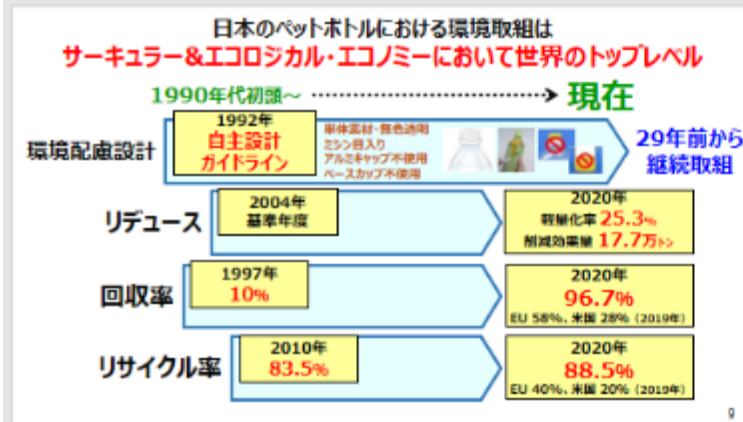
7



8



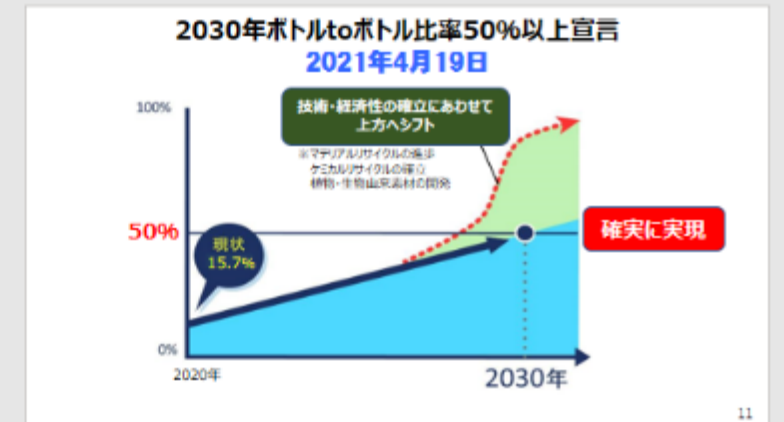
9



10



11

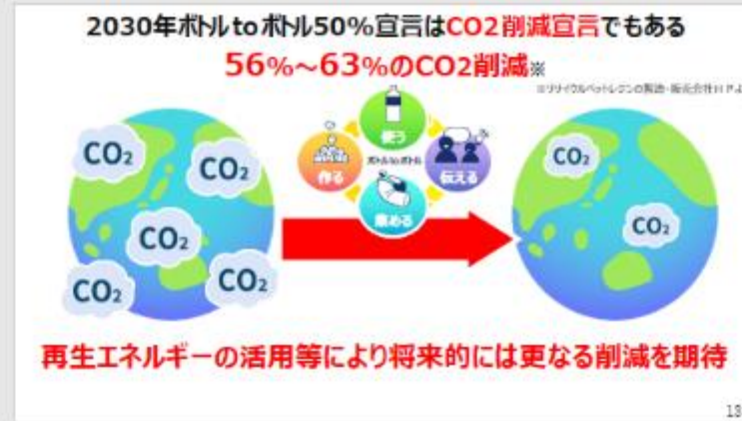


12

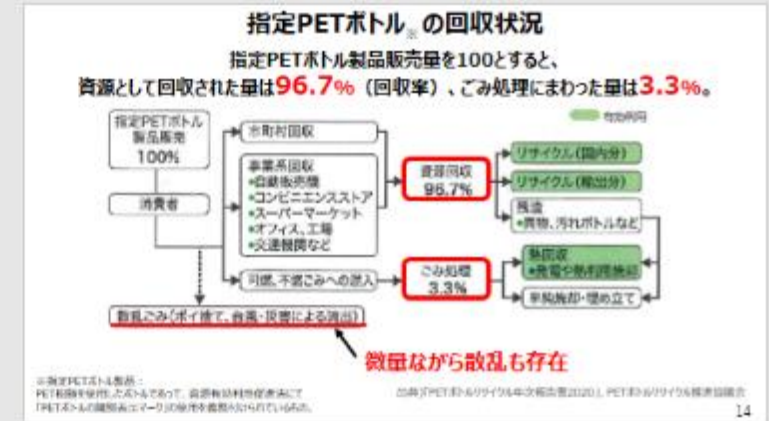
ゼロカーボンシティ特別区研究会 講演の資料 (P.13~18)



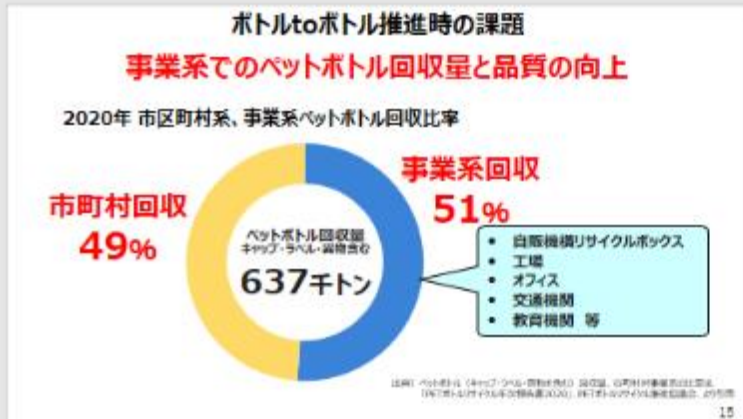
13



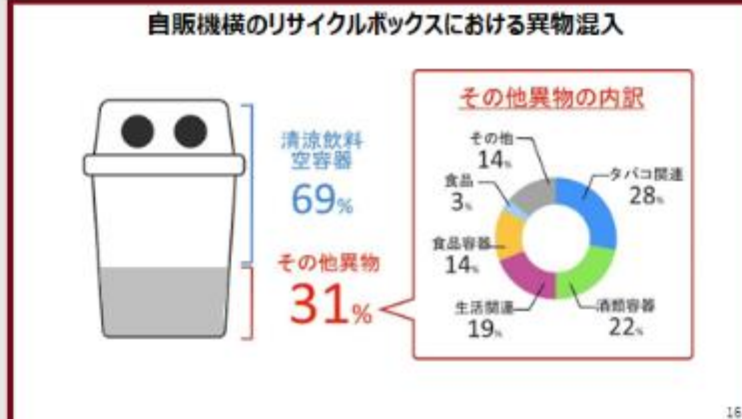
14



15



16



17



18

ゼロカーボンシティ特別区研究会 講演の資料 (P.19~24)

ボトルtoボトル東京プロジェクト結果 (2020年)



18

2020年 自販機横リサイクルボックス取り組み



- 目的:
リサイクルボックス異物低減
高品質PETボトル回収
散乱防止
- 内容:
“脱ごみ箱化”を目指す新形状のリサイクルボックスを開発
中身の組成分析を行い、改善効果を検証
- 期間:
(従来型) 2020年 11月 9~15日
(新型) 2020年 11月16~22日
- エリア:
渋谷区中心 (回収量・頻度が多く、全年利用が利用)
- 台数: 20台

異物数 ▲48%
異物混入割合: 13.4%改善 41.4%→28%

19

2021年 自販機横 新機能リサイクルボックスの開発・投入



2022年秋 業界統一仕様へ!
異物削減・散乱防止・資源循環

2020年度モデル

20

全清飲 2021年 メディアリリース一覧

■自治体・事業系との取り組み

日程	活動内容
3月18日	葛飾区・全清飲「ボトルtoボトル取り組み」
10月12日	広島「海ごみ流出防止プロジェクト」
11月4日	センコー社「配送センター周辺でのリサイクル推進プロジェクト」
12月20日	原宿表参道学生会「SmaGO」広告

■ボトルtoボトル関連

4月19日	2030年ボトルtoボトル比率50%宣言
5月25日	日経SDGsフォーラム特別シンポジウム
8月2日	自販機リサイクルボックス異物低減プロジェクト

21

【葛飾区・全清飲】2021年 取り組み

3月	葛飾区・全清飲 ボトルtoボトル協定締結式
8-9月 (開催期)	①告知 (ホームページ、区報、SNS) ②リサイクルステーション展開 (区役所前広場) ③啓発ポスター (公共施設245ロケ) ④アンケートWeb調査 (事業系15社)
10月	【ドリンクジャパン】 自治体パネルディスカッション「ペットボトルの未来を考える」
12月	【ゼロカーボンシティ特別区研究会】⇒ 全清飲参加

【葛飾区】

葛飾区で回収している
使用済ペットボトルを
100%ボトルtoボトル
※前年までは5%程度

22

「葛飾区と全清飲の連携及び協力に関する協定書」締結式 2021年3月17日



(葛飾区) 青木区長、赤木副区長
(全清飲) 米女会長、河野専務理事

【協定締結式の内容】
「ゼロエミッションかつしか」及び
「ボトルtoボトル」の推進

【メディア・記事露出 (50音順)】

- TV
NHK首都圏、MX東京
- 新聞
東京新聞、都政新報、
日経新聞、毎日新聞、読売新聞
- 業界紙
キューティー、食品産業新聞社、
食品新聞、食料業界新聞社、
白鶴販売出版社、帝國飲食新聞社、
日刊経済通信社、日本食糧新聞社

23

19

20

21

22

23

24

ゼロカーボンシティ特別区研究会 講演の資料 (P.25～30)



25



26



27



28



29



30

ゼロカーボンシティ特別区研究会 講演の資料 (P.31~36)

12月20日~1月31日 全清飲版 SmaGO啓発広告の出稿
資源循環の世界的トップランナーとしてのペットボトルのリサイクル率の高さを啓発し、リサイクル意識を高める。



30

31

全清飲版 SmaGO展開写真



32

32

海外への情報発信 (関連省庁・関連団体との連携)
[循環経済パートナーシップ J4CE (ジェイフォーエス) へのエントリー] (J4CE: Japan Partnership for Circular Economy)



33

33

気候変動アクション環境大臣賞受賞

【普及促進部門】
「サーキュラー（循環）＆エコロジカル（地球との共生）
・エコノミーのトップランナーに向けた挑戦」
～CO2排出量削減への取り組み～

【リデュース】
■ ペットボトルの軽量化（24.8%減）
約20年前から取り組み、生産本数2004年比
2019年1.60倍に対し、環境負荷（CO2排出量）1.07倍
■ ラベルレスボトル、プラスチック使用削減機会も追求

【リサイクル】
■ 指定PETボトルの自主設計ガイドライン
約30年前からの取り組み
リサイクル・再利用が無しと比較し、CO2排出量約40%少
■ 2030年ペットボトル100%有効利用宣言
■ ボトルtoボトル車庫プロジェクト
■ 2030年ボトルtoボトル比率50%宣言
→ ボトル1本当たりCO2排出量56%～63%削減



34

34

サーキュラー（循環）＆エコロジカル（地球との共生）・エコノミー
における世界のトップランナーを目指していきます！



35

35

ご清聴ありがとうございました

36

葛飾区 資源循環啓発に向けた協働取組 (総括)

3月	8-9月	10-12月
3月17日 【協定締結式】 ・ゼロエミッションかつしか ・ボトルtoボトル  葛飾区と一社一企業資源循環推進委員会との協定締結式 米女会長、河野専務、青木葛飾区長、赤木副区長 メディア・記事露出 NHK首都圏 MX東京 日経新聞 読売新聞 毎日新聞 東京新聞 都政新報 業界紙8紙	【最盛期対策】 ①リサイクルステーション展開 (区役所前広場)  ②啓発ポスター (2450枚) 公共施設、図書館、教育機関、学校等、 ③告知 ホームページ、区報、SNS ④事業者アンケート調査 ⇒ Web調査 (事業系15社)	10月14日 【ドリンクジャパン】 自治体パネルディスカッション 「ペットボトルの未来を考える」 東京都・葛飾区：ゼロエミッション 神奈川県・広島県：海ごみ対策 12月23日 【ゼロカーボンシティ特別区研究会】 ➢ 葛飾区発起人 ➢ 全清飲が講演 ➢ 東京都23区へのボトルtoボトル拡大の投げかけ

目標
達成

市役所前3分別イベント
成功

87%の3分別達成率

- ➡ 区民のリサイクル意識は高い
- ➡ 正しい啓発、適切な回収機会と機材を提供すれば、区民の協力は得られることを確認

目標
達成

葛飾区と協働した
啓発拡散力の再確認

- ➡ 葛飾区民への区報を通じたイベント告知
- ➡ 啓発ポスター245枚 掲示

今後の
課題

アンケートからの示唆

- ➡ 自動販売機横のリサイクルボックス設置の異物低減対策を通じて回収機会の担保が必要
- ➡ 駅・公園のごみ箱設置を希望
- ➡ 日本のリサイクル率等の先進性に関する更なる啓発必要

目標
達成

葛飾区を核とした
ボトルtoボトル推進活動拡大

- ➡ 葛飾区以外の東京23区の環境関連リーダーと意見交換できた意義は大きい
- ➡ 東京都、広島県、神奈川県とのドリンクジャパンでのパネルディスカッションの実現

II. 個別事業報告

2. センコー平和島PDセンター緑地帯飲料容器の散乱低減プロジェクト

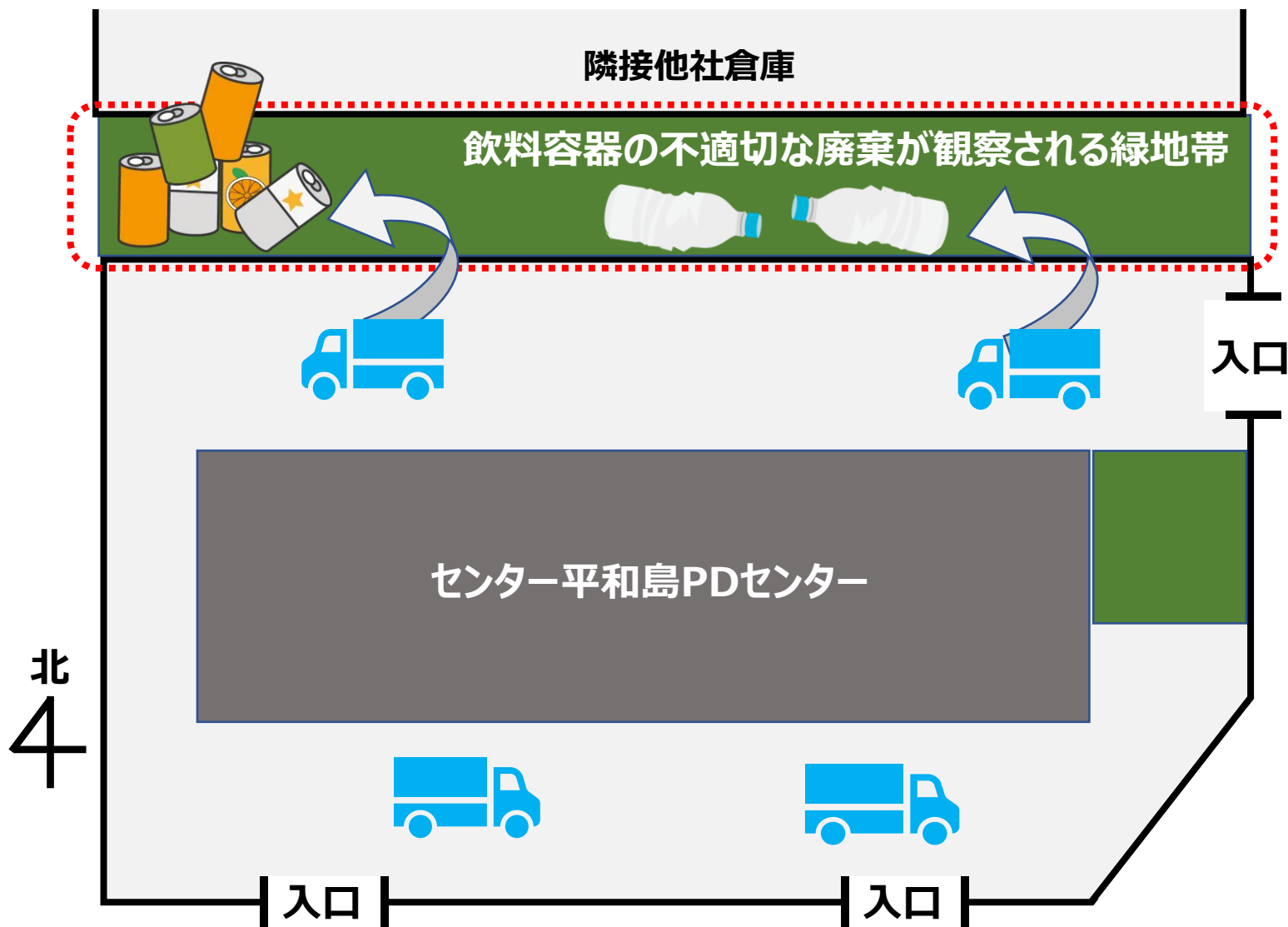
事業概要

案件名	センコー社平和島PDセンター周辺の緑地帯への飲料容器散乱低減事業
目的	● センコー社平和島PDセンター周辺の緑地帯の飲料容器散乱を低減し、飲み終わった飲料容器の回収率向上と河川、海洋への流出を防止する。 ● 新しく開発した汎用型リサイクルステーションを設置して、昨年度型と同等の分別廃棄・回収が達成できるかを検証する。
実証実験期間	令和3年11月1日～令和4年1月31日
実証実験内容	昨年度の期間限定的リサイクルステーションの実証実験を通じて、適切な場所に、適切な回収機材を提供すれば、ドライバーの協力は頂ける事が確認されている。また、ペットボトルの3分別回収への協力レベルも高い事が昨年度の実証実験で確認出来ている。 ① 北側の隣接倉庫との間の緑地帯に、飲料容器の不適切な廃棄と散乱が観察される事から、啓発看板と適切な飲料容器の回収機材を設置することで散乱を低減する。緑地帯の散乱低減は、飲料容器の回収率の向上と周辺河川、海洋への飲料容器の流出を防止する。 ② 汎用型リサイクルステーションをセンターの南側に設置し、昨年度と同等の分別廃棄・回収が達成できるかを検証する。
達成イメージ	● 北側緑地帯への、飲料容器の不適切な廃棄が低減・撲滅されること。 ● 新しく開発した汎用型リサイクルステーションが、昨年度型と同等の啓発・分別効果を示すこと。
投入機材	● 緑地帯フェンスへの啓発メッセージ・ボード ● 緑地帯に面した北側への飲料容器回収機材の設置（令和3年型の新機能リサイクルボックス・プロトタイプ機材を流用） ● 新しく開発した汎用型リサイクルステーションを南側のドックに設置

センコー社平和島PDセンター

① 周辺の緑地帯への飲料容器散乱低減事業

センコー社平和島PDセンター緑地帯 飲料容器 散乱問題状況

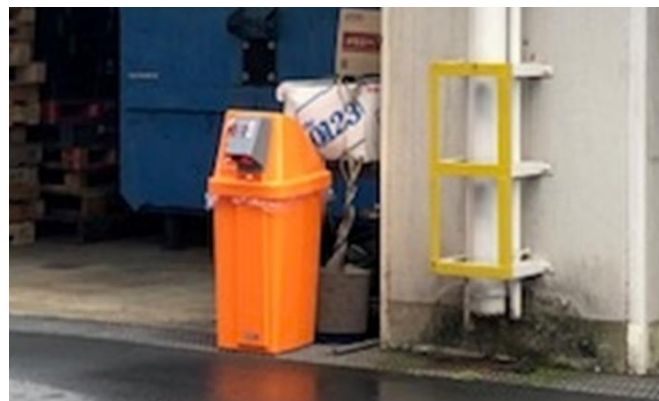


北側の隣接倉庫の間の緑地帯に使用済飲料容器の散乱が発生している。

北側通路を進入してきたトラックが荷待ち状況の際に、トラックから北側の緑地帯に不適切に廃棄されたものと推定。

緑地帯のフェンス面での啓発と適切な回収機材の導入で散乱を防止できるものと考えた。

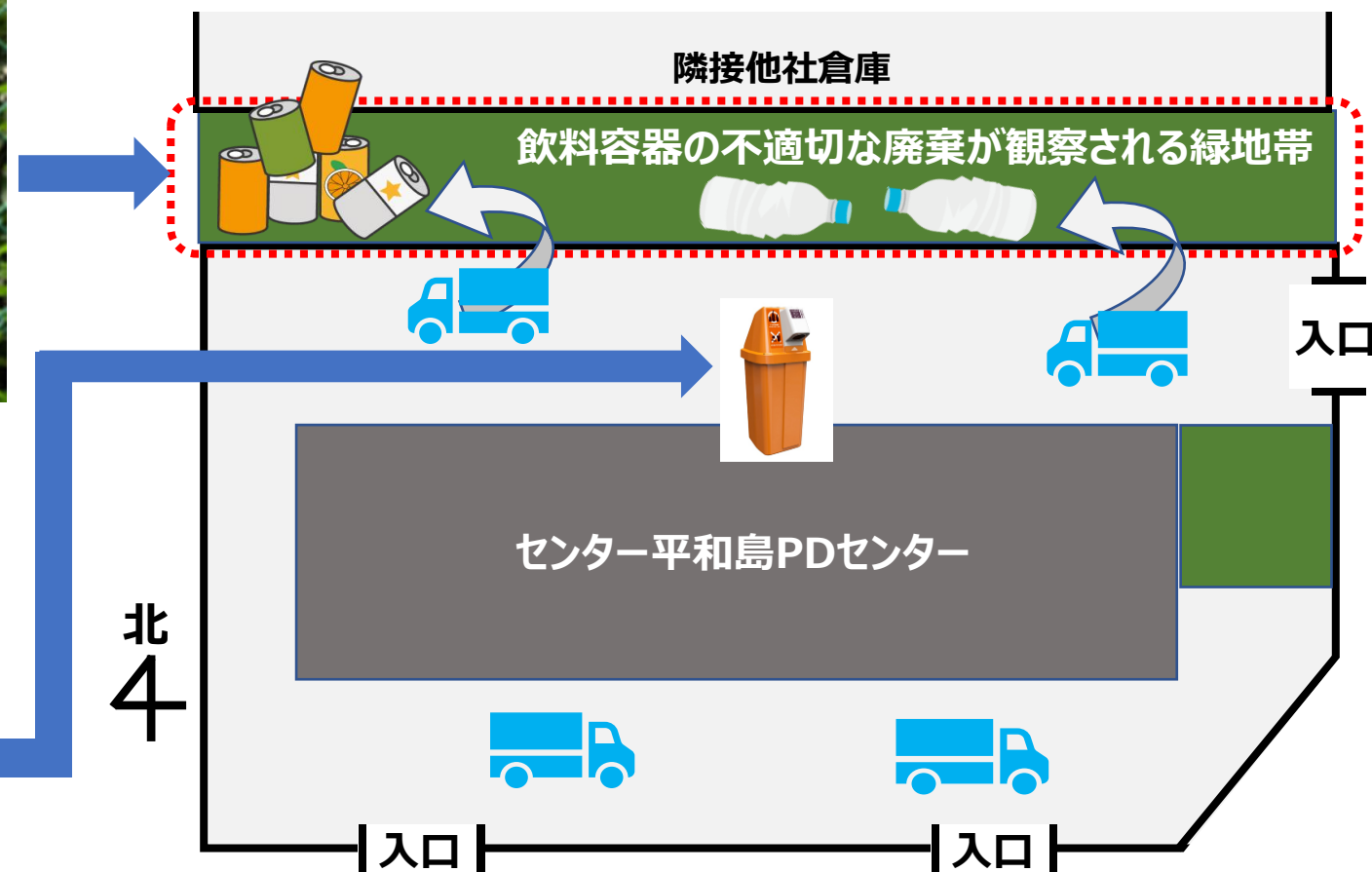
センコー社平和島PDセンター緑地帯 飲料容器 散乱対策



② 飲料容器の回収機材設置

新機能リサイクルボックスを活用

① 緑地帯のフェンスに啓発看板を複数設置



センコー社平和島PDセンター緑地帯 飲料容器 散乱対策 — 結果



1/24以外は
完全撲滅



1/24の1本

【 評価 】

- フェンス内の不適切な飲料容器の廃棄は観察期間中、ただ一本のみ観察
- また、新規に設置した飲料容器回収専用機材（新機能リサイクルボックス）への異物投入は全く観察されなかった。
- 適切な啓発メッセージと適切な回収機材を適切な場所に提供すれば、トラックドライバーの皆様のご協力を得られることが改めて確認された。
- ボトルtoボトル推進に向けた回収の拡大に加え、散乱の抑制により、飲料容器の周辺、河川、海洋への流出防止にも大いに貢献できたものと評価する。

	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/10	1/17	1/24	1/31
ペットボトル回収本 （本）	14	25	15	11	55	16	19	61	37	22	22	18
飲み残し本数 （本）	0	1	4	3	2	2	3	2	0	2	2	0
異物混入率（％）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フェンス側散乱本数 （本）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

センコー社平和島PDセンター

② 新開発の汎用型リサイクルステーション効果検証

センコー社平和島PDセンターにおける新開発の汎用型リサイクルステーション実証実験

ペットボトル回収箱には
キャップとラベルの投入口が
あり、回収箱の中でペットボ
トルとキャップ・ラベルが
分別されて回収される

令和2年型
リサイクルステーション
大型で目立つ
【高価で展開に限界】

目立つデザイン



ペットボトル、ビン缶、
プラスチック（燃えな
いゴミ）、その他（燃
えるゴミ）の4連箱

回収箱の上に
分別回収を喚起する
啓発メッセージ

- 令和2年度型は「目立つデザイン性」もあり、センコー平和島PDセンターを含めて各実証実験箇所で70%～90%の3分別が達成され、啓発効果の高い機材であった。
- 半面、下記の欠点があった為、デザインを簡素化して、残りの黄色の特徴のみを残した「汎用型リサイクルステーション」をデザインして、啓発効果の違いを昨年事業と同じ場所（センコー平和島PDセンター）で実施した。
 - ✓ 大型で設置場所の制約を受ける
 - ✓ コストが高い為、実証実験後にロケーションに残して継続使用していただく事ができない。

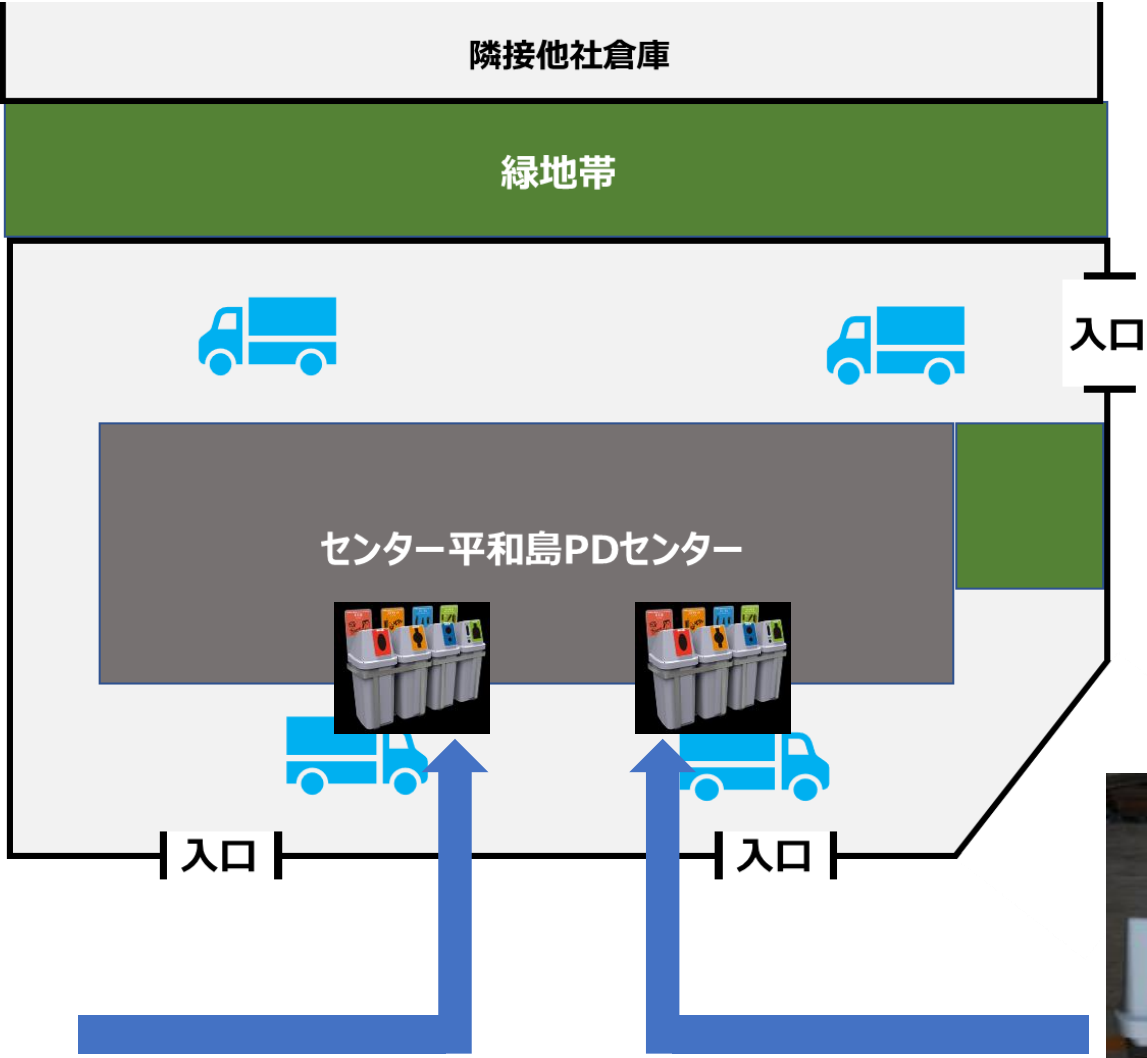
令和3年型
汎用型リサイクルステーション
ひと回り小さいサイズ

【コスト的にも実証実験先に進呈することが可能】

の特征を残して汎用型として再デザイン



センコー社平和島PDセンターにおける新開発の汎用型リサイクルステーション実証実験



- 南側ドックの2か所に設置
- 令和2年実証実験において同年型のリサイクルステーションを設置した場所と同じ場所

西側
リサイクルステーション



東側
リサイクルステーション



センコー社平和島PDセンターにおける新開発の汎用型リサイクルステーション実証実験結果

西側			11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/10	1/17	1/24	1/31
	ペットボトル専用回収容器に投入された使用済みペットボトル状況	ペットボトル回収本数	35	57	63	54	60	70	73	78	94	67	83	80
		3分別達成率	34.3%	33.3%	15.9%	22.2%	10.0%	7.1%	9.6%	16.7%	11.7%	6.0%	7.2%	13.8%
		キャップのみ除去率	28.6%	14.0%	20.6%	11.1%	21.7%	12.9%	24.7%	10.3%	8.5%	11.9%	14.5%	5.0%
		ラベルのみ除去率	5.7%	3.5%	0.0%	1.9%	0.0%	4.3%	1.4%	1.3%	2.1%	3.0%	1.2%	3.8%
		飲み残し本数	1	1	2	2	2	4	5	4	6	2	6	4
		異物混入率	0	0	0	0	0	1.1%	0	0	0	1.1%	0	0
	ペットボトルの他回収容器への混入	ペットボトルの缶ビン回収BOXへの混入	1.7%	2.4%	1.3%	0.0%	0.5%	2.7%	1.2%	1.0%	7.1%	0.0%	0.0%	2.8%
		ペットボトルのプラスチックBOXへの混入	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%
		その他BOXへの混入	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- 西側、東側ともに、令和2年度機材との比較では3分別比率は低い。(令和2年度の3分別実績：70%)
- 西側は導入当初34%、導入1か月26%、導入2ヶ月平均18%、3か月平均16%
- 東側は導入当初23%、導入1か月36%、導入2か月平均35%、3か月平均31%
- 東側は人通りが多いこともあり、スタート時から平均は西側より3分別達成率も高く、達成度合も著しくは下がらなかった。
- ペットボトルの他回収容器への混入や、ペット専用回収容器にへの異物混入率は低い

東側			11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/10	1/17	1/24	1/31
	ペットボトル専用回収容器に投入された使用済みペットボトル状況	ペットボトル回収本数	22	47	45	33	43	46	61	44	65	36	42	74
		3分別達成率	22.7%	44.7%	33.3%	36.4%	41.9%	17.4%	29.5%	40.9%	27.7%	36.1%	26.2%	17.6%
		キャップのみ除去率	4.5%	8.5%	4.4%	15.2%	16.3%	23.9%	18.0%	20.5%	12.3%	13.9%	16.7%	6.8%
		ラベルのみ除去率	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	4.9%	2.3%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
		飲み残し本数	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
		異物混入率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.0%
	ペットボトルの他回収容器への混入	ペットボトルの缶ビン回収BOXへの混入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
		ペットボトルのプラスチックBOXへの混入	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.2%	2.5%	0.0%	0.0%
		その他BOXへの混入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

センコー社平和島PDセンターにおける新開発の汎用型リサイクルステーション実証実験結果

- ① 3 分別比率は昨年実験の70%に対して大きく下落。(3か月平均：西側16%、東側31%)
- ② 3分別比率低下の要因は、デザインを簡素化した為に3 分別のお願いが伝わっていないと推定。下記は要因の仮説：
 - 3 分別の為の投入口の意味が伝わっていない。
 - 昨年度との比較で、「従来とは違う」感が弱いデザインとなっており、消費者に従来とは違う行動を促すきっかけをコミュニケーション出来なかった。
- ③ 今後の汎用型リサイクルステーション設置時には、別途、「従来とは違う」ことのメッセージを啓発看板等で補完、強化した上で活用したい。
- ④ 反面、ペットボトル回収箱への異物は観察されず。異物問題は、飲料容器以外の廃棄箱が、別途、適切に設置されていれば起こらないことが、再度、確認された。

センコー社平和島PDセンター（総括）



**緑地帯への飲料容器散乱防止施策
は想定以上の効果が確認された**

- ➡ ボトルtoボトル推進に向けての回収の強化と海ゴミ対策としても貢献できる施策と評価。
- ➡ 倉庫地区の飲料容器散乱問題解決の先進的事例として、次年度以降も他の事業所への拡大を目指したい。



**汎用型リサイクルステーションの啓
発能力は昨年度の大型機材との
比較では低下することを確認**

- ➡ 今後の汎用型リサイクルステーション設置時には、別途、「従来とは違う」ことのメッセージを啓発看板等で補完、強化した上で活用したい。
- ➡ 反面、ペットボトル回収箱への異物混入は観察されず。異物問題は、飲料容器以外の廃棄箱が、別途、適切に設置されていれば起こらないことが、再度、確認された。

II. 個別事業報告

3. 表参道SmaGO啓発広告プロジェクト

事業概要

案件名	表参道櫓会 SmaGO啓発広告出稿
目的	● 資源循環の世界的トップランナーとしてのペットボトルのリサイクル率の高さの啓発を通じてリサイクル意識を高める ● 表参道のモデルを他の自治体に紹介する事で、街中のリサイクルボックス・資源回収拡大の可能性を追及する。
実証実験期間	令和3年12月20日～令和4年1月31日
実証実験内容	● 原宿駅から表参道駅に通じる歩道はトラフィックが多く、既設リサイクルボックスのあふれ対策が課題となっていた。地元商店街振興組合である原宿表参道櫓会(以下、櫓会)は、対策として圧縮機能のついたSmaGO(広告運営型の回収機材)を導入し、ごみのあふれや散乱課題の解決に取り組んでいる。 ● 櫓会の管轄するSmaGO事業の一部は、啓発広告事業により支援されている。 ● 櫓会の管轄するSmaGO(回収機材)への啓発広告出稿を通じて、資源循環の世界的トップランナーとしてのペットボトルリサイクル率の高さの啓発を通じてリサイクル意識を高める。
達成イメージ	● メディアに取り上げてもらい、資源循環のトップランナーとしての啓発に貢献した。
投入機材	● SmaGOへの啓発広告の出稿

12月20日～1月31日 全清飲版 SmaGO啓発広告の出稿

資源循環の世界的トップランナーとしてのペットボトルのリサイクル率の高さを啓発し、
消費者のリサイクル意識を高める

- 原宿表参道櫓会の運営SmaGOは表参道地区に13箇所
- 全国清涼飲料連合会では2つのデザインで啓発広告を出稿した

バブル背景
デザイン
9箇所/13箇所
展開



海背景
デザイン
4箇所/13箇所
展開



全清飲版 SmaGO展開写真



メディア・SNSでの取り上げ状況



➡ メディア：

- 新聞報道（５）：日刊工業新聞、週刊循環経済、環境新聞、日刊産業新聞、サンケイスポーツ
- テレビ（２）：フジテレビ「潜在能力テスト」、BS-TBS「クイズ！薬丸家のSDGs生活」のクイズ番組で紹介される

➡ Twitter：（全清飲確認分；2022年2月9日現在）

- 表参道SmaGOツイート：16件、ツイートに対する「いいね」合計：83件、リツイート合計：27件
- 東京都庁広報課公式アカウント動画再生回数：3,530件

➡ QRコードアクセス状況：1月5日～1月31日のページビュー数：37件

メディアの取り上げ状況

12/23
日刊工業新聞

状態を遠隔で管理し、
回収の頻度を最小限に
抑える。広告費を回収



原宿に設置している
スマゴ

費用に充てられるた
め、設置者はゴミ回収
コストを低減できる。
スマゴはペットボトル
と普通ゴミの回収ボッ
クスを併設しているこ
とからペットボトルの
分別率が高い。全清飲
はスマゴの活動を支援
することで、ペットボ
トルリサイクル率のさ
らなる向上を目指す。

全国清涼飲料連合会
は22日、スマートリサ
イクルボックス「Sm
aGO（スマゴ）」を
活用したペットボトル
リサイクルの啓発活動
を始めたと発表した。

東京・原宿の表参道沿
いに設置した13カ所の
スマゴにペットボトル
リサイクル率を掲げた
広告を2022年1月
末まで掲出。通行量が
多くなる年末年始の時

期にペットボトルリサ
イクルを訴求する。
スマゴは太陽光発電
の電気でゴミを自動圧
縮し、ゴミ箱の5―6
倍の容量を回収でき
る。また、ゴミの回収

ペットボトルリサイクル

回収箱で啓発活動

全清飲
東京・原宿

(注) 日刊工業新聞より本報告書への記事引用に関して許可を頂いて掲載しています

メディアの取り上げ状況

1/19
日刊産業新聞

全日本清涼飲料連合会（全清飲、会長Ⅱ米女太一・アサヒ飲料社長）は、東京都内の表参道周辺で昨年12月20日からペットボトルリサイクルの啓発活動を行っている。原宿駅から表参道駅までの約1.5キロにわたって設置されている、自動圧縮機能やIoT（モノのインターネット）技術を搭載するリサイクルボックスを活用した取り組み。関連イラストを外装し、利用者のリサイクルへの意識向上や、リサイクル率の改善を図る。期間は2022年1月31日まで。

全清飲 ペットボトルリサイクル啓発活動



表参道に設置のリサイクルボックス

トなど最低限の情報だけが盛り込まれているのも特長。詳細はラッピングに印字の二次元コードから得られるようにした。スマートリサイクルボックス「SmagO」は投入されたごみの量をクラウド上で管理できるほか、ごみのかさばり具合を自ら判断し圧縮する機能を持つ。現在は商店街振興組合がごみを管理し、委託先の業者が回収している。国内で独占販売権を持つフォーステック（本社Ⅱ東京都港区、竹村陽平社長）が20年に設置。ごみ処理費は同社の広告費でまかなわれている。

全清飲は18年に、ペットボトルの100%有効利用を30年までに達成することを宣言。今年4月にはペットボトルを再度ペットボトルに戻す「ボトルto.ボトル」の比率を50%まで引き上げるとも掲げている。

那須俊一企画部長は「今後一層のリサイクル推進を目的に、日本が誇るペットボトルのリサイクル率の認知を高め、皆様とより高いリサイクルの極みを目指したい」と話した。

（注）日刊産業新聞より本報告書への記事引用に関して許可を頂いて掲載しています

中間処理でも技術革新

資源循環型社会の構築に向け、中間処理技術の革新が求められている。特に、PETボトルのリサイクルは、資源の有効利用と環境負荷の低減に大きく貢献している。最新の中間処理技術は、従来の方法と比べて、エネルギー消費を大幅に削減し、処理効率を向上させている。また、廃棄物の分別収集の徹底も、リサイクルの効率化に不可欠である。自治体や企業は、最新の技術と適切な分別収集を組み合わせ、持続可能な資源循環を実現している。

“ボトル to ボトル”が進む

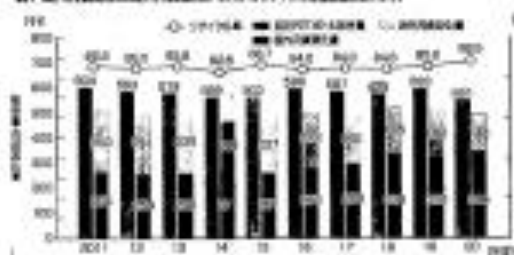
異物異質でプロジェクター

PETボトルのリサイクルは、資源の有効利用と環境負荷の低減に大きく貢献している。最新の中間処理技術は、従来の方法と比べて、エネルギー消費を大幅に削減し、処理効率を向上させている。また、廃棄物の分別収集の徹底も、リサイクルの効率化に不可欠である。自治体や企業は、最新の技術と適切な分別収集を組み合わせ、持続可能な資源循環を実現している。



新開発のPETボトルリサイクル機

図1 国内PETボトルリサイクル率の推移（単位：％）



国内PETボトルリサイクル率の推移は、2001年の10.0％から2019年の28.0％へと大幅に向上している。これは、自治体や企業の取り組み、そして最新の中間処理技術の導入によるものである。特に、PETボトルのリサイクルは、資源の有効利用と環境負荷の低減に大きく貢献している。最新の中間処理技術は、従来の方法と比べて、エネルギー消費を大幅に削減し、処理効率を向上させている。また、廃棄物の分別収集の徹底も、リサイクルの効率化に不可欠である。自治体や企業は、最新の技術と適切な分別収集を組み合わせ、持続可能な資源循環を実現している。

異物異質でプロジェクター

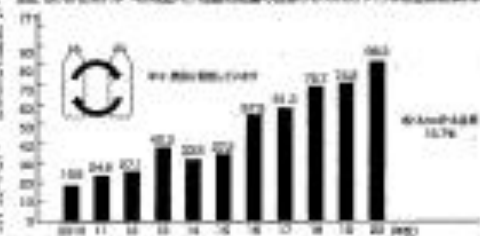


新開発のPETボトルリサイクル機

事業系の異物混入対策必要

PETボトルのリサイクルは、資源の有効利用と環境負荷の低減に大きく貢献している。最新の中間処理技術は、従来の方法と比べて、エネルギー消費を大幅に削減し、処理効率を向上させている。また、廃棄物の分別収集の徹底も、リサイクルの効率化に不可欠である。自治体や企業は、最新の技術と適切な分別収集を組み合わせ、持続可能な資源循環を実現している。

図2 国内PETボトルリサイクル率の推移（単位：％）

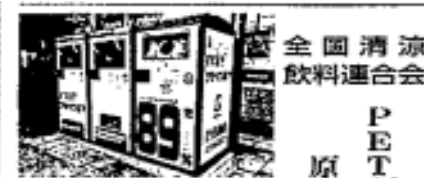


国内PETボトルリサイクル率の推移は、2001年の10.0％から2019年の28.0％へと大幅に向上している。これは、自治体や企業の取り組み、そして最新の中間処理技術の導入によるものである。特に、PETボトルのリサイクルは、資源の有効利用と環境負荷の低減に大きく貢献している。最新の中間処理技術は、従来の方法と比べて、エネルギー消費を大幅に削減し、処理効率を向上させている。また、廃棄物の分別収集の徹底も、リサイクルの効率化に不可欠である。自治体や企業は、最新の技術と適切な分別収集を組み合わせ、持続可能な資源循環を実現している。

特集・PETボトルリサイクル 全国&東日本

メディアの取り上げ状況

1/17
週刊循環経済新聞



スマートリサイクル
ボックス「SmaGO」

全 国 清 涼
飲 料 連 合 会

PETボトルはリサイクルへ
原宿・表参道から情報発信

（一社）全国清涼飲料
連合会（東京・千代田、
米玄太一会長、以下「全
清飲」）は1月末まで、
商店街振興組合原宿表
参道振興会（松井誠一理
事長、以下「標会」）と

フォーステック（本社
・東京、竹村陽平社
長）が展開するスマ
トリサイクルボックス
「SmaGO」13カ所
（計34基）を活用した
PETボトルリサイク
ルの啓発活動を原宿・
表参道で実施する。S
maGOに「すてろ？
リサイクルる？」リサイ
クル率89%というメ
ッセージと詳細情報に
アクセスできるQRコ
ードを掲出し、年末年

始の時期、多くの人に
訴求する。

原宿駅から表参道駅
に通じる約1kmの歩
道は通行量が多く、既
設リサイクルボックス
の回収容量を超え、あ
ふれ対策のための回収
頻度の増加が課題にな

通知機能を搭載したス
マトリサイクルボッ
クス「SmaGO」に入れ
替えた。

SmaGOは、「ペ
ットボトル・かん・び
ん用のボックス」と「そ
の他」用のボックス
を分けており、使用済
み飲料容器のボックス
に異物が混入しないよ
う工夫している。「そ
の他」については、セ
ンサーで内部に溜まっ
た量を検知して圧縮す
る仕組みで最大で約6
00リットルをためることが
できる。ボックスの中
身がいっぱいになった
ら標会や収集運搬業者
にメールで通知して回
収する。全清飲など広
告出稿者が費用の面な
どをサポートする。

つていた。ホイ捨ても
多かったという。
その対策として、標
会では2020年9月
から、ソーラーエネル
ギー可動による自動圧
縮機能やIoT技術を活
用した回収量などの

全清飲の那須俊一企
画部長は、「日本のP
ETボトルの回収率は
97%、リサイクル率は
89%で世界のトップラ
ンナーだ。もっとリサ
イクル率を上げたい」と述べている。

（注）週刊循環経済新聞より本報告書への記事引用に関して許可を頂いて掲載しています

表参道櫓会 SmaGO啓発広告出稿（総括）

ボトルtoボトル推進に向けてはより多くの消費者へのリーチが必要
その観点から、一定の啓発効果を確認できたと評価



- ➡ 年末年始に出稿し、大勢の来街者(消費者)の目に触れたものと評価
- ➡ メッセージは：「89%のリサイクル率」啓発を通じて、「表参道から100%有効利用を目指そう」
- ➡ メディアで取り上げも多数：
 - 新聞報道（5）：日刊工業新聞、週刊循環経済、環境新聞、日刊産業新聞、サンケイスポーツ
 - テレビ（2）：フジテレビ「潜在能力テスト」、BS-TBS「クイズ！薬丸家のSDGs生活」のクイズ番組で紹介される
- ➡ Twitter：（全清飲確認分；2022年2月9日現在）
 - 表参道SmaGOツイート：16件
 - ツイートに対する「いいね」合計：83件
 - リツイート合計：27件
 - 東京都庁広報課公式アカウント動画再生回数：3,530件
- ➡ QRコードアクセス状況：1月5日～1月31日のページビュー数：37件



III. 令和3年度ボトルtoボトル東京プロジェクト総括

令和3年度ボトルtoボトル東京プロジェクト成果総括

	達成すべき成果	成果
 葛飾区 区民へのボトルtoボトル 3分別啓発活動	- 区役所前の令和2年度型リサイクルステーションでのイベントで、有意的な3分別回収の実績が確認できる - 区民のリサイクル意識（理解度、現状の課題と今後に向けた要望）の把握及び変革	- 区役所前イベントならびにアンケートを通じて区民の高いリサイクル意識の確認とさらなる意識変革に貢献したと評価 - 葛飾区を核とした東京都の他23区ならびに東京都外の自治体へのボトルtoボトル推進活動拡大にも大きく寄与 目標達成 目標達成
 センコー センコー平和島PDセンター 緑地帯での散乱低減 汎用型リサイクルステーション実験	- センコー平和島PDセンター周辺の緑地帯飲料容器の散乱の有意的な低減 - 新設計の汎用型リサイクルステーションが、令和2年度型との比較で一定効果が維持されていること	- 飲料容器の緑地帯散乱はほぼ消滅 - 汎用型リサイクルステーションの3分別啓発効果は単独では昨年度より弱く、今後の活用は啓発看板等の強化が必要とのラーニングとなった 目標達成 今後の課題
 表参道SmaGO啓発広告 若年層の意識改革を図る	ペットボトルリサイクル率89%等の日本のペットボトル・リサイクルにおける誇るべき事実をコミュニケーションし、若年層の意識改革を図る。	- 年末年始の表参道での啓発広告出稿を実現し、若年層へのコミュニケーション効果があつたと評価 - メディアでの取り上げも多く、SNSではTwitterの数東京都庁広報課公式アカウント動画再生回数が3,530件を記録 (2022年2月9日現在) 目標達成

EOF